

2022年9月4日主日礼拝

説教題「心を新たにされ、共に礼拝する者へ」聖書：ローマ 12:1-2 コリント I 3:9

音楽主事 菊地るみ子

「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神のみ旨であるか…。(ローマ 12:2 口語訳)

「わたしたちは神のために力を合わせて働くものであり、あなたは神の畑、神の建物なのです。」(Iコリント 3:9 新共同訳)

この夏、アメリカ・カナダ賛美歌学会 100 周年大会に教会から送り出していただき、心から感謝いたします。この大会で一番楽しく、嬉しかったことは、超教派で賛美歌をシェアしたことです。朝の礼拝が主でしたが、カトリック、聖公会、ルター派、メノナイトなど普段は共に歌うことのない賛美歌を全員で歌いました。

それから、私はアトランタへ移動する飛行機の関係から、最後の礼拝クロージング・ヒムフェスティバルには出られなかったのですが、メキシコやコロンビア、ブラジルのベネディクションと一緒に、新生讃美歌 679 番レニー先生が作られた「ベネディクション」も歌われたと聞きました。

大会はコロナ禍でしたから、食事以外はマスク着用で賛美歌を歌いました。雑談の中においては、LGBTQ の課題、クリスチャンの在り方、教会の社会性、教会が立たされている目的や責任。神さまは私たちに何を求めておられるのか。同じような課題が日本にもあることを共有できました。その上で、礼拝で歌われる賛美歌の変化と実際を様々な講演を通して学ぶのですが、課題は、「時代に即した賛美歌の歌詞」を考えていくことが大きなものでした。

音楽、賛美歌には趣味、趣向、好き嫌いがありますが、自分の好みを抑えてでも変化を受け入れていく努力が必要だということでしょう。聖書も自分の思いに合うところだけを読んでいては信仰は成長しません。むしろ信仰とは自分の思い通りにならないことに自分を合わせていく、思い通りにならないことを乗り越えていくことだと思うのです。

今朝の聖書ローマ人への手紙 12:1-2 節を見ましょう。パウロさんはこの 12 章から後半にかけて、「信仰の成長」「イエス・キリストによって救われた私たちは、どのように生きるべきなのか。」その生き方について語ります。1-2 節クリスチャンの基本的な生き方には、

①神さまに喜ばれる供え物として私自身を捧げる＝献身 ②この世と妥協してはならない＝倣ってはならない。③心を新たにされ、造りかえられる＝自己変革 と勧めています。① の献身とは、「神さまのために生きること」です。新生讃美歌 402 番に「わたしはもはやみ神のもの」という賛美歌があります。原歌詞ドイツ語直訳は「わたしはもう自分

のものではない」という意味です。自分を手放して神さまのものです。と告白することで。②はこの世と妥協しないことです。私たちは、学校や会社でどうでしょうか。また世の中の動き、世論に「同調」という形で合わせてしまうことはありませんか。

あなたは世の中の動き、世論や価値観に支配されるのではなく、「神さまは私に何をどう考え、行動するように求めておられるのか。」、神さまの求めにフォーカスすることだと思います。③は自己改革です。2022年度教会主題は「リコンストラクション」再構築です。この主題が起こされた背景にあるのは、新礼拝堂が与えられました。しかし教会の内実、私たちはどこか破れが生じているのではないか。再構築が必要ではないですか。との問いから生まれたものです。これこそ「私たち教会改革」の事柄です。

「リコンストラクション」のもともとの意味は、アメリカ南北戦争が関係しています。1861年から1865年にかけて北部のアメリカ合衆国と、合衆国から分離した南部アメリカ合衆国の間に行われた内戦です。南部アメリカ合衆国とは、奴隷制の存続を主張した南部の11州が結成したものです。南部が敗北したので、アメリカ連合国と奴隷制が崩壊し、国の再建、問題解決への取り組みの過程を意味する用語です。

多くの痛みと努力、忍耐によって取り組み、現在もある意味アメリカの「再建」は続いているように今回の旅でも感じることができました。

「リコンストラクション」のキーポイントは、「心を新たにして自分を変えていただき、造りかえられ」にあると思うのです。私が握りしめている「変えたくないもの」「手放したくないもの」「ずっとこのまま同じでいたいとの思い」「私の正しさを主張すること」「私には改革は必要ない」などなど。それらを持ち続けている限り、時神さまからいただく自己改革は進みません。「変わりたいけど、変われない」あきらめの境地にもなります。神に喜ばれ、何が神のみ心であるか、何が善いことで、完全不完全なものなのかを知るようになれば希望があります。私たちにはその力はありません。エペソ人への手紙1:19には次のように書いてあります。『私たち信仰者に対して、絶大な働きをなさる神の力が、キリストを死者の中から復活させ、天においてご自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世に唱えられる名の上におかれました。教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。』『私たちは神のために力を合わせて働くものであり、あなたがたは神の畑、建物なのです。』へとつながるのです。

来週は大嶋重徳先生をお迎えします。「若者と共に歩む教会」。リコンストラクションの力をいただくチャンスです。期待し、祈って主の日を迎えましょう。